

梅窓筆記

坤

			和書門類
	二七五	八函	
一	八	二	
二册	架	册	

庫	文	閣	内
三	二	二	和書類
函	九	二	
架	册	册	
		七	
		五	
		四	
		號	

内閣文庫		
番號	和	27754
冊數	2 (2)	
函號	212	101



梅窓筆記卷下目録

歸業山房

明治十三年購求

掛物 上下巻テ掛ル

一丁才

點心

一丁才

儒書ヲ講ス僧ノ音声ト同キ

門出

明治十三年購求

佛事ニ被ラスル

二丁才

賀杖

二丁才

扇ノ上ニ物ヲ置

二丁才

百種供物

三丁才

狐ヲ神トスル

三丁才

急状

三丁才

蚊松殿

三丁才

御修法曼多羅

四丁才

表衣ヲ縫縮テ著

四丁才

善光寺如来文書

四丁才

大床子御膳

四丁才

琵琶和琴名器

五丁才

中陰ニ佛事ヲ修セサル

五丁才

琵琶和琴名器

五丁才

神ニ茶ヲ奉ル 五丁ウ

柳笛 五丁ウ

焼ヒニ太郎次郎ト云フ 六丁オ

物語草紙類ヲ見ル心得 六丁オ

米ヲ染ル事 六丁ウ

大工、衣冠 七丁オ

食膳ニ梅干ヲ置ク 七丁オ

男女直衣并女房上髪 七丁ウ

千世、松坂 八丁オ

小解除手袂 八丁ウ

乞巧奠歌の内、糸トヨク 九丁オ

地下祭 九丁ウ

三七日法事 十丁オ

柏排 十丁ウ

雨師 十丁ウ

鎌倉右府真影 十一丁オ

撰集ニ古歌句ヲ改レシ 十一丁オ

人長神樂 十一丁ウ

忌日ニ神事佛事トニ從ゼル 十二丁ウ

四十九日 十一丁ウ

養父母族假ノ夏 十二丁オ

折敷作付高坏 十二丁ウ

僧ニ袂ヲ負スル事 十二丁ウ

寫生、似貞 十三丁オ

經文題和歌懷紙 十三丁オ

開帳 十三丁ウ

突鼻 十三丁ウ

學我家ノモト思フカガル 十三丁ウ

住吉鹽干 十四丁オ

扇ヲヒロケテ送ル事 十四丁ウ

寸大臣 十四丁ウ

大黒 十四丁ウ

塗籠 十四丁ウ

戲ニ大臣名ヲ己心嫌フキ 十五丁オ

中古ノ歌ハ万葉心ニ及カキト云フ 十五丁ウ

年男 十六丁オ

明神 十六丁オ

貴人ナラ子氏建廟設像 十七丁オ

猿樂 十七丁ウ

白紙 十七丁ウ

繪扇横目正目 并杉横目扇 十八丁ウ

婚礼智取横目扇ヲ忌フ 十八丁ウ

不知姓 十八丁ウ

鬚ヲソル支 十八丁ウ

女酒ヲ不飲ト云フ 十八丁ウ

繪馬 十九丁ウ

三十六歌仙ヲ拜殿ニ掲ル事 十九丁ウ

社人幼年ニテ元服事 十九丁ウ

長袖 二十丁ウ

樂譜ノ唱歌 二十丁ウ

神樂モロウ夕 二十丁ウ

蹴鞠時僧者ヲカケ下 二十丁ウ

末額 二十一丁ウ

宅替時賀茂社忝事 二十一丁ウ

六町町 廿一丁ウ

吸物 二十一丁ウ

腰抱 廿一丁ウ

産屋借地ノ文 廿二丁ウ

白禿藥 廿三丁ウ

神階 廿三丁ウ

神ヲ神體トスル支 廿四丁ウ

有馬御湯治 廿四丁ウ

淨衣ノ色目 廿四丁ウ

御殿ノ弘廂 廿四丁ウ

渡唐天神 廿四丁ウ

銀柳筥 廿四丁ウ

慶滋 廿五丁ウ

十三面忌 廿五丁ウ

山科高倉兩家衣紋 廿五丁ウ

日本見在書目錄 廿五丁ウ

東屋 廿五丁ウ

御藥辛櫃 廿六丁ウ

天神七代ノ神号 廿六丁ウ

御家様上云并勅筆勅額 廿六丁ウ

カセ杖 廿七丁ウ

服中ニ神号ヲ書事 廿七丁ウ

色紙形ニ名ヲカガ下 廿八丁ウ

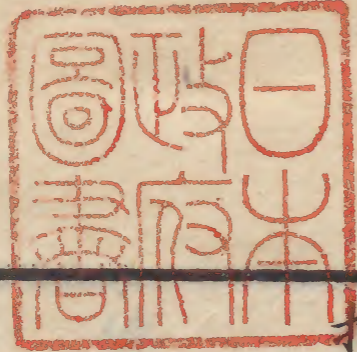
白川吉田兩家ノ神道 廿八丁ウ

謡曲ニ禁句ヲウケ替ル下 廿八丁ウ

以上九十八條

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

梅窓筆記卷下



掛物ノ上下ヲ卷テ掛テ左經記長元八年正月十四日巳
 亥治部省廳本年大風顛倒仍太元御修法可行処有
 議於大膳職北屋修之中件屋短狹佛像高廣仍上
 下各卷之奉懸云々トアリ茶家者流ニモ此ニ似タ
 ル掛物ノ掛ヤウアリ
 當時モ饗膳ノ前ニ假初ニ小漬飯ヲ出スヲテンジン点心ト云リ
 輟畊録八葉今以早飯及飯後午前午後哺前小食為
 点心トアリ園大曆康永三年九月十六日壬寅晴今

日上皇可臨幸天龍寺中於南面客殿先供湯次供
點心次茶也トアリ此外ニモアルベシ又禅家ニ点心ト云
ト多アリ

經史氏論義ノ音声ノ台記久安二年六月二日庚子

依例講尚書講師直講師元問者余及敦任皆引

音如僧同年八月廿一日有家豎義事中今夜豎者

探題皆無失可謂有勃但豎者音声頗中其題唐声讀

自余事不異于僧トアルハ音声僧ノ經論義ニ同シカ

リシニヤ

旅行ノ以前ニ門出ト云トヲ俗ニスルト台記久安四年

二月十日取入夜向宗俊阿闍梨房是出門也十二日

為道虛日之故也即行後十二日可參ハ幡仍自今

日神齊トアリコノ例ニ據セハ今モ上道ノ日アシケレバ

己前吉日ニ門出ヲセハ便宜ナルベシ

佛支ニ被ヲスルト江次第ニモシエレ氏左經記長元七年

八月十五日壬申天晴午後著ハ省東廊行大被是明日

為被行仁王會所被被清也トアルニ佛支ヲ行フトテ先

被ヲスルト分明ナリ

續後撰賀部建保三年和哥所アク秋阿九十ノ後ニ

海ノ色ケル時銀ノ枝乃竹ノ葉ニカキ付ル時

哥めさしぐるふ

大蔵の家

とくともはちしつてなつて今迄もかたしと

玉海建仁三年十一月廿三日取置鳩杖以銀作之件

杖竹形也其上居鳩也有一枝二葉件葉書和歌有

家朝臣詠之トアリソノ杖ノ寸法ハ知レ子氏近世

ニ賀ニ調セラレタリシヲ卷末ニ圖ス

物ヲ假ソメニセ又料ニ扇ヲ敷^{シキ}テソノ上ニオケルモフルキ

ナリ侍中群要^弟御書使支賜御書之後暫置日記

辛櫃上^{以扇敷下若殿上}トアリコノ外ニモ日記ニアリ

トオホエケレト忘却セリ

佛事ニ百味ヲ供スル^ト人車記嘉應元年九月廿六日己卯

天晴^取要依^故殿御月忌^中畧百種供物御供養如例

狐ヲ神トスル^ト續古事談云^ハ一^ハ聖干を祓の体や

たりたる社の色よき^ヲを射るるものあり又塏

囊抄第二狐ヲ祝^イフ社女神ニテ^レセハ女官ニ准テ命

婦ト云フ^ト吳音ニミヤウブト申セルニヤトアリ今モ山城伏

見ノ稻荷ニ命婦社ハコレナルベシ

昔シ怠狀ト云ハ今ノ過證文ナリ失錯アル片怠狀ヲ奉ル

トアリ又カヘシ玉フ^トモアリ

傳宣草

宣旨 返給急狀於外記狀

權右中弁光經朝臣進急狀事

仰宜徵將來返賜

右宣旨可被下知之狀如件

文保二年十月六日

春宮大夫判

トアリ今時モ過去ヲ許シテ過狀ヲ返シ未來ヲ徵
アリ

姊小路北堀川東橘逸勢家ノ蚊松殿蚊字ヲハヒトヨム
ヲ疑フ人アリ水左記兼曆四年八月廿八日壬午晴今日

寢殿御方於蚊松被供養佛經トアリ蚊ハ蚊ト同字ナリ

姊小路北西洞院東高明親王家高松殿モ西ノ蚊松

ハニ對セシ名ニテモヤアリケン

今ノ曆ニ神ヨリト云日ハアレヒト云日ハシルサ

ズ予ガ藏スル後堀川院貞應二年癸未年ノ假名コヨミ

ノ小片はとけし又神はとけしナトノ日ヲシルセリ

後世ニ除タリトニユ神吉日三室吉日氏ニ拾芥抄及陰

陽家書ニ分明ナリ

表衣ヲ又ヒチメテ着ツアリ明月記建仁三年十二月廿

七日取中將殿御拜賀戌時許自九條殿令參入給御

裝束遅々今夜着殿下御袍給縫縮トアリ

正月ノ御修法ニ用ラル曼多羅ヲ俗中ニ弘法大師ヨ
リノモノヤウ云ヘヒ駕輿丁舟木氏記元禄六年十一
月十八日於仁和寺宮中御修法本尊兩界曼多羅
新畫開眼供養トアリ

大江俊冬記當時大床子御膳ハ享保十八年丑年御再
興トアリ

大和國法隆寺ニ善光寺如来ノ文ト云モノアリ密封シテ三
ルナラザレヒ三十九丁善光寺如来ト聖
德太子ト往来ノ消息ノ文出タリフニイテニテ知ヘシ

百練抄天福元年五月廿九日普賢寺入道攝政年七十四
終焉之時各不可面謁中陰不可修佛事之由息被
相定トアリ普賢寺殿ハ基通公ナリ息トハ猪熊攝
政家實公ナリ本邦ノ中世以来中陰ニ佛更ヲ不修ハ
實ニ希ナリ當時ノ神道者流ノ賞歎スヘキトト
オモフナリ

拾芥抄ニ出タル和琴ノ名器ノ河霧ハ官物ニテ御神樂
ノ時ハ被用シガ万治四年焼失セシ後ハ官物ノ新絃ヲ
用ラル由安陪季尚編輯セシ樂家録ノ和琴秘録ニ三
エタリ惜ヘキトナリ琵琶ノイハホ巖ハ今ニ傳テ今出川殿

惣シテ物語草子別テハ佳吉物語ヲノ玉フ吾國ノ書ニ
ハ上^{ウヘ}モナキ日本紀ヲオシサゲテソレハ大カイヲコソレルシ
オキタレ^レコトニカ^ニナサウシナトニコソ^ニサシクミチ^クシ
キ夏ハ有^ヘケレトカセ玉フハ都^ステ物語草子類ヲ翫味スル
人コ^ニ心ヲト^メテミルベキ^ト也精撰ノモノニハ却^カテ嫌疑ヲ
用捨スル^トアレ^レ氏物語草子ニハ用捨ナク當時ヲアク^テ
ニカクモノナレハ時世ノヤウスヨク考ラルベシ後世トテモ草
子ニハ當時ノ^トヲ書^リサレハ物語草子ノ作者ノ名ヲア
ナカチニ穿鑿ニ至ルベカラズ

新米ノ代ニ米ヲ青ク染テ用ル^トアリ大和国春日社年中

行夏記云八月諸式如平月但旬神酒徒今日用濁酒
散米用新米若年穀未就則以米染青トアリ

棟上ノ氏大工ノ衣冠スル^トモフルキ^ト也玉葉兼安二年

二月三日^{建春門院}新御堂上棟上棟大工束帶自取麻昇屋上下

アリ

食膳ニ梅干ヲ置^トハ毒ケシナリ世俗立要集ニ兼久以後
武家ノ肴ノ様ヲミルニ如此梅干ハ僧家ノ肴也而テ俗
家ニ用ラル夏如何若漢土ノ作法欵漢土ニ鳩^チト云鳥ア
リ其鳥ノ羽ヲ杓^ク入ツル酒ヲ鳩酒ト云此酒ヲ飲ツレハ必
ス死スト云^ク其變ニ梅干ヲ用ル而ヲ若敵アリテ鳩酒モ

ヤスムルトハシノ臺ニ梅干ヲ一置ト云々アリ

直衣ハ官服ニアラス藝服ナリ藝ハケハレノケニテ私ノ服ナ

リ故ニユリサレハ公ニ直衣ヲ著テ参ラズ又女房ニモ直衣ア

リ江次第御藥著尋常唐衣裳稱之直衣女房同第

十九殿上賂弓女房四人扈從命婦二人藏人トアリ女房ノ直

衣ト云ハ裳唐衣バカリニテ表衣ヲキヌヲ直衣ト云ト三

エタリ中世ヨリ女房ノ表衣ノ沙汰ハナケレ氏上古ハ唐

衣ノ上ニ表衣アルベシサテ花鳥餘情白兵部殿上童束

帶ノ時總角スコレヲミツラトイフトノ井スカタ直衣ヲ

云ソノ時ハミツラユハストキカクルナリトアルヲ准拠ニテ女

房モ直衣ノ氏ハカミヲアゲズ額許アケヲ上テトキカクルナ

ルベシ都トテ女房ト童ハ同シ定ノモノナリトキカクルト

ハ今ノスベラカシノ一也俗ニスベラカシサゲカミヲ礼ナ

リトオモヘトシカラズスベラカシサゲカミハ藝ノ一ナリ

髪ヲ上テ算シスルカ女ノ礼ナリ髪ヲ上ル一モ中古ヨリ沙汰

ナケレ氏禁秘御抄御膳女房上髪三位已上釵子許也暑氣

比允聴上髪トアルニテ知ベシ此比ステニウルハシク髪ヲ上ルヤツ

サタカナラサリシニヤ

伊勢街道ノ伊勢ニ松坂ト云所アレド今ノ俗ノオトリ

ノ音頭ト云モノ三千世ノ松坂トイヘルハ山城ノ栗田

ノ東ナリ應永卅一年極月十四日室町殿御参宮秘

日記ニ

我も又々ハ坊よ入日けうれくむふあハ坂の山
松坂少もはきまね年々歳々乃淨系宮子とては
け所しもちと坊の坂乃名をうらうたひこの
祝詞ふあひう形ゆるも非魚のしからまむる前
ちり

君ハかきと子代の花さく松坂といく十廻りつこまてらるへき

小解除手被ト云フ日次記ニアルハ假初ニラヒラスルナ
ルベシ左經記長元九年五月十九日取以御骨一升許奉

納茶椀壺中畧事畢関白相府以下歸路云於鴨河下

車手被只以草人形不備祭物又无縁葬作法記云民部卿記云

人々歸ル時取近邊草カキワケテ懐之渡河水之時

面ヲ以草カキ撫テ流之是ヲ名手被弃畢白杖同弃

畢或記云於水便所少解除以人形撫之弃川畢トア

リ小被トアルモ少解除ト全シナナルベシ

七月七日乞巧奠ニかきけり系ナト哥ニヨメルカスト云フヲ

哥學者流ニカスハ手向ト云フナリト云説アレド然ラ

ズ乞巧奠ニハ人料ノ物ヲ星ニカスナレハ故モナク夕、

カスト云フナルベシ人車記仁安三年七月七日丙寅内

裏御遊具於清涼殿東庇佳例被涼於東庭乞巧
奠藏人基光奉行於桂芳坊御服犬頭系奉借織
女トアルニ借ト云フ分明ナリ犬頭系ノ犬頭ノ一ハコ
ニ用ナケレハ別ニシルセリ

當時モ吉田村松尾村ト云ベキヲ俗ニ吉田地下松尾ノ地
下ト云リ夕、吉田地松尾地ト云フニテ下ノ字ニコ、口

ナカルベシ康富記宝徳元年八月廿四日壬申是日松尾
祭去四月依神領違乱令延引去月廿五日者社家祭云地

也トアリ廿四日ハ公家ヨリノ祭ニテ廿五日ハ地ノ一ツ
リト云フナリ

延喜神祇式會三七日法夏當日不得參内トアリ長秋

記天永二年二月廿日取參左府尋申云會三七日法

事當日不得參内云而謂三七日四十九日間何ヲ可

申哉仰云件事無傳聞宇治殿雖令尋道者等

申旨不分明但進來所習來者亡者在家時訪人

雖不身穢不參内又觸穢了後雖會法事參内常

事也者今夜參内トアレト吉槐記元徳三年九月廿

日大判事明清入來予相尋云所載神祇式三七日法

夏者其身雖不穢當日不令參内云此三七日トハ如

何明清申云此夏秘事也三七日トハ三十ヶ日已後事也

五七日六七日七々日十八三十ヶ日已後之間其身雖不
穢不令參内ヲ載之也トアルニ分明ナリ

愚昧記兼安三年三月十四日取カレハハサニ拍拍拵拵木塗黒黒云云トアリ

拍夾ト云ル名義ハ詳ナラ子氏拍夾トテ冠ノ纓ヲ卷
テ木ニテ夾ミトムルハ火災或ハ旅行ナト道ノ間
纓ノ風ナトニ飛揚セザル料ナリソノ仕ヤウ説々ア
レ氏是非ヲシラス橘直幹草紙詞書ハ慶運画シ
レズ火災ノ所ニ拍夾シタル騎馬画卷末ニアリ

抱朴子曰辰日雨師者龍也トアリ文德實録嘉祥
三年七月丙子朔取要進大和國丹生川上雨師神

中階授正四位下トアリ雨師ハ龍ナルヲ参考シテ知ベシ
万葉集ヲ唱ル者流ニ鎌倉右府ヲ殊ニ称スル故ニ
ソノ真影ヲ大臣卷物ヨリ摸シテ卷尾ニ圖スソノ
卷物ハ大臣八十人ノ真影ニテ豪信法印ノ画ナリ
和歌ノ撰集ニ古哥ノ句ヲ聊ツ、改テ撰ハレシト多シ
哥ニ限ルベカラス河海抄葵四条大納言公任の和
漢朗詠ニおほく古章句とニ三字を改て入たる
りあり獲落危牖壞宇秋有秋風とありと有秋
聲聲とあり又樂天の詩ニ可是禪房無熱到とあ
るも、不是禪房と改たり是等の例ナラン

明月記建久十年八月四日取出京參日吉中於大宮

室前被行御神樂俗稱入長神樂トアルハ今内侍所有和琴等

鴨八幡ナドニアル神樂ノ下ナリ里神樂ニ對テ神樂

歌ヲウタフ神樂ヲ人長神樂ト云ナルベシ

忌日ニ神夏ニ預ラザルハ常ナレ氏玉海兼安五年二月

九日取明日當遠忌故人曰忌日不從神夏不從佛夏ト

アルヲミレバ佛夏ニモ預ラサルナレベシ忌日ハ終身喪ナ

レハサモアルベシ神夏佛夏ニハ限ラス他夏ニモ預カラス

謹慎シテアルベシ

中陰ノ四十九日ヲ薨日ヨリ計ルハ中右記永久二年四月

三日京極大北政所右大臣師房公女薨同月廿二日葬禮五月廿二

日故北政所四十九日也コレハ薨日ヨリ七々日ヲ計レリ

北山抄傍親就養父母之族可有其假至于本生之族不

可假但可トアリ今ハ養方ノ族ニ喪セス本生實方ノ

族ノ三ニ喪セレ氏元祿ノ服忌ノ定ト云モノニハ養方ノ族

ニ喪スルハ三エタリ古代モ此定ノ行レシハ百練抄寛治

三年十月四日諸卿定申中凡為人養子之者本生傍親

服不可着之由命議了トアリ又助無智秘抄臨時有心喪

人可を少少ハ表袴柳色ノ下重をきは中畧平乃親為

人たりト時伯耆守乃乃朝臣卒去ト時此裝束

きは件乃仍胡后ハ仍親伯父也云々を惟仲卿屋
うしたるに^り着服せ心喪の装束をりらわら
らトアリコレ北山抄ノ文ニ叶ヘリ養子ノ義父ニ對シテ
ハサモアルベキ理ナリ神道者流ノ忌ト云論ニカハラ
ズ恩義ノ輕重ニアルベシ

高坏ノ上ノ四角ナルハ折敷作付高坏ト云モノ也小右記

寛仁二年六月廿八日取御前物 朱漆折敷作付トア
高坏四本

リ松尾社及春日社ニアリ卷末ニ圖アリ

僧ニ被ヲ負スル一左經記長元四年九月十七日取中
要

納言奉勅召陸陽寮令勘可負祇園僧被々日時

是僧於祇園本ノミ曰主内葬送仍其崇出御ト因之所被

行也云云

當時云寫生ノ似良ナト云一モフルキトトニエテ古今著

聞集ニ後堀川御時似繪を御好ありらるに北面下篇

御隨身なるもの彩をた糸と信實胡后と云てか

せらわらトアリ

經文ヲ題ニシテ歌ヲヨメル片懷紙ニ經ヲ料紙トスル一

ナリ薩戒記永享六年十月一日取抑件一品和歌予
要

當勸持品先日詠送之了懷紙為經料紙トアリ南

都一乘院宮御藏經文題歌西行寂蓮ソノ外當時

人十二枚ノ懷紙三十經文ノ裏ニカケリフノ外古筆ニ
多ク經文ノ裏ノ歌ヲ經ノ裏ニカケルアリ予家ニモ
日野左大臣勝光公經文題懷紙ヲ藏セリ經ノ裏
ナリ

開帳ノ名目モフルク聞エタリニ水記永正十八年二月八日

早且詣木屋藥師堂鳥丸從去月開帳也聖德太子御作

云古物御面貌不慥八百年許無開帳云トアリ

突鼻ト云フ康富記應永廿七年十月十三日取要突鼻

之輩數十人御免トアリ

學ハ天下ノモノニテ我家ノモノトオモフベカラスト荷田

春滿ノイハレタリシハ見識ノ博シト云ヘシ稻荷本社

ノ社法モ多ク此人ヨリ改シテアリト云リ予稻荷中

社祝正五位下某ニ彼社ノ社參以下ノ次第ヲ借テ

一覽セシニ拍手ノ条ニイタリテ拍手小大或大小ナトシ

ルセリコレト部家ノ遺風ヲ傳シナリ拍手ニトカ或ハ拍

手二段トアルヘレ後ヲ以テ古風ニセントスル片ハ皆コノ失

アリ學者ノコロヲ附ベキナリ

住吉ノ塩干ノ和長卿記延德四年三月二日壬申晴今

朝藤中入道室家依誘引詣住吉社為可見物塩干也ト

アリ

扇ヲヒロケテ送ル^取愚昧記仁安四年二月十三日^要蔵人

治部少輔兼光勅使参入^中兼光持御扇^{押篋敷紅薄様}其上置赤色御

^{扇一枚}被置之

トアリ

後愚昧記應安二年十二月廿二日消息云^取大臣八号^要香

取官人召具条勿論トアリ寸大臣ト云大將ナドノ兼官ナキ

ヲ寸大臣ト云ナリ

大國主ヲ大黒トスル^取トモ久シキ^要ト三エタリ親長卿記

長享二年十一月八日^取夢中歌件湯山明神三輪

明神也始来臨影向之時御姿為大黒^云

塗籠ト云モノヲヤ、モスレハ土蔵ノ^取ニ思フ人アレドシ

カラズ塗籠ハ今俗ノ納戸ト云所トオナシモノニテ寢殿

ノ中ニアルモノナリ字津保物語^{くらひらき}燈中の

燈^取ハ^要人の家も^取い^要ん^取さ^取る^取所^取ト^取む^取し^取る^取志^取ん

らん^取ひ^取り^取め^取く^取り^取ハ^取く^取て^取ぬ^取り^取ら^取め^取た^取か^取さ^取たり

とも^取は^取る^取あ^取ら^取の^取も^取み^取よ^取お^取ほ^取ら^取ま^取よ^取つ^取つ^取め^取き^取ら^取ら^取ら

フト云ニ分明ナリ

戯トト云ヘ正大臣ノ名衆ヲ用ル^取トヲ好ガル^取ト明月記建曆

二年十二月廿八日^取要^取可^取候^取連^取歌^取座^取由^取被^取仰^取云^取依^取甚^取雨^取先

相儲馬場殿小時出御如例儀始賦木人名人名トハ當

世人名字隱題用也不可嫌尊卑^云此中有隆忠名

雖戲更巫相名如何太不便トアリ

千五百番哥合ニ俊成卿判詞ニ中古の歌ハ万葉集心

に及ひかゝるるありトイハレシハ諾ナルトニテ詞ハ万

葉集ノ詞ニヨミイタシヌレド心ハ及フベカラス心ノ古

ニ及フヤウニ有ヘキト也

同卿ノ六百番ノ歌合ノ判ニ頭昭ノくらららるるか

らさ海トヨメルヲ万葉ふるらるるに覚え侍と

はやらの狂歌体の哥どもとみほく侍る中よ侍よや

ほととぎす後くきくゆトイハレタリシハ鯨ヲ万葉

ニイサナトヨミシラシリ玉ハサリシニヤ又ク千ヲトヨ

ニテモ何モオソロシキトハアルマシキニヤ

年男ト云フ南都春日社記應永世五年戊申正月日社

頭之詣日記若宮常住神殿一應永世五年正月一日

曉御奉行祐富殿年男下番神殿守宗時ノ代官宗

繁一面一瓶持參ス時ニ神主殿ヨリ鏡一面ツクタモノ

ニテ御酒三献祝了但下部ニ小餅一前給ナリトアリ

明神ト云ハ公式令明神御宇日本天皇詔旨トアリテ現

在ノ天皇ヲサシテ申ストニテ神ヲサスニハ名神ト云フ

ナリシカ名ト明ハ字音ノ同シキ故ニ通テモ用ヒタリ

サレト差別ハア止ヘシ續日本後紀永和十年夏四月

下丑山崎神預之名神トタルヲ同紀兼和十五年春
三月壬申勅奉_二亮山城國乙訓郡山崎明神御戸代
田二町トアリ同神トテ名神ヲ明神トカケル證明ヲ出
スノ三仁和三年三月十四日賀茂明神春日明神ト
アリ此外ニ又台記久安三年二月廿二日_{取春日祭}
大名神四座氏カケリ後世ニナリテハ大明神ナトヲ
被授シ_一モアリシ也宣胤卿記永正七年十二月十
二日

近江國神崎郡小幡社可奉号惣社大明神之由
被聞食訖者依

天氣執達如件

永正十七年十一月十二日 左中弁判

小幡山神官中

昔同記ニ大織冠鎌足公ニ被奉授大明神号_一モアレト

今時ノ如ク私ニ大明神ト云_一ハナカリシナリ

貴人ナラ子_一氏建廟設像_一續日本後紀兼和三年十

二月辛丑安房國言安房郡人伴直家主立性肅然常守孝

道父母没後口絶滋味建廟設像四時供養事死

如生未嘗懈倦トアリ滋味ヲ絶廟ハ建ス_一氏如在礼

カクアリタキモナリ

禁秘御抄ニ有^レ藝者依^レ其^レ夏^レ近^レ召^レ夏^レ近代多如^レ寛平
 遺誠不可^レ然^レ况如^レ猿樂參^レ庭上可^レ止事也トカ、セ玉ヒ
 シ猿樂ヲ今俗ニ云能^レ乱舞ノ^レトオモフヘカラス建曆ノ
 比今ノ乱舞ト云モノハナカリシナリ三宝院滿濟准后記
 應永世四年正月十三日卷簾覽^レ猿樂トアルハ今ノ乱
 舞ニテ此記ニテ三^レハ貴尊モ簾ヲタレスニ玉ヒシナリ
 昔シ白紙ト云ハ印ヲオサヌ文書ヲ云シナリ續日本紀兼
 和十一年六月戊寅主水司言司家之政觸類繁多而本
 自無^レ印只用^レ白紙夏^レ涉^レ輕疎未^レ免^レ嫌疑望^レ請^レ准^レ内膳
 采女司被^レ給^レ件印者勅^レ宜^レ充^レ之トアリシニ分明ナリ

檜扇ニ横目正目アリ杉横目ノ扇モアリ皆木理ノ^レナリ
 一サメニ對^レシテノ横目ナリ後光嚴院詞土佐經隆画職
 人歌合八番右^レひもの

柄^レき^レれ^レの^レほ^レさ^レり^レも^レな^レし
 よ^レめ^レの^レり^レり^レも^レな^レし

ト云ニ分明ナリ正目ノ木理ハ人ヨク知^レトモ横目ノ木
 理ノ紛^レハシキ故ニ古物ノ杉横目扇ノ小片二三枚ニシ
 ヲ卷末ニ圖ス

管礼聳取ニハ横目扇ヲ忌^レナリ長秋記元永二年十
 月五日早旦依^レ招^レ引^レ向^レ伊豫守許^レ執^レ聳^レ間事^下同月

廿一日取要帶野劔持笏扇給件扇下官調進施泥繪不トアリ

姓氏ノ不分明ノ人ハ不知姓某トカケルトトミエテ中右記

大治五年十一月廿三日取要常陸清原近宗安房不知

姓實信トアリ

古代ハ都スベテ鬚ヲ除ツラザルノヤウニイヘト源氏物語ハ本

西ひけるともよりほく後ひ給ひハ志けまてお

至のまうよりもけよやのむむりトアルヲミレハ此

比ハ既ニヒケヲソリ玉ヒシニヤ

我朝ノ礼ニ女ハ酒ヲ不飲ト云トアリソノ來由ハ知ラ子氏

玉葉治美四年七月十九日己巳天晴此日姫君着袴

也中畧御前物臺六本依姫君不供酒盞也玉葉治美元三

年三月廿三日取要此日故攝政前太政大臣長女有入宮

事中次供蘇芳織物打敷有伏組裏蘇芳打也臺六本朱臺也

畧必不飲酒仍不更催三位トアリコレラノ記文ヲ拠ニテ婚禮

下居向臺食之ニモ女ノ前ニ酒盞ニ酒ヲ入ザルヲ故實トス

繪馬ト云フ朝野群載卷ニ獻供物於北野廟敬白献上

取要色紙繪馬二匹中畧寛弘九年六月廿五日トアリ又宣胤

卿記永正十七年十一月九日明日多武峯社遷宮関白

御使衛門佐才宣綱中畧宣秀相伴下ル繪馬二枚進云

云トアリ

三十六人歌仙ヲ拜殿ニカクテ親長卿記文明三年五月廿二日
次悲田院彼寺邊北野天神勸請或仁三十六人歌人可
書進拜殿寸法所望之由令申之間罷向見廻了相伴

菅相公云々

社人ハ幼少ニテ元服ヲ加テヨキニヤ康富記宝徳元年

十一月十九日甲子大原野祭取神主未加首服着淨衣

勤祝師役云云十二三才之童形也云云不可説次第欵

トアルニ春日社司師盛卿記應永十年十一月十四日昨

日故若宮神主祐深次男令元服實名祐富生年五

才云云トアリ大原野社上古無神主故臨期ト定其人

ト江次第ノ頭書ニアリシカ此比ハ神主ノ出来シト云

官家ニ隨フ者ヲ長袖ト云テ伊勢山田福嶋家ニ蔵ス

ル古文書云

汝更長袖之條自然非分之儀申試候輩雖有

之不可兼引間北畠中將任一札候間鍋次郎福

嶋家可相續永代不可有相違者也

天正五六月廿四日

信長 御朱印

大神宮北監物大夫の

樂譜ノ唱歌ノ一愚問記抄物云成佐云夕唱歌ノ詞ハ

百濟國ノ語ナリ我朝ノ音樂濫觴ハ百濟國ヨリ

渡ルナリタリナリ如此ノ詞ナリ皆彼國ノ語ナリ

神樂ニモろあを作と云ハ庭火ノ哥ノ末句ヲウタヘト

仰ラル、ト也近比ニハキカザリシカ柳原紀光朝臣ノ神

樂奉行ノ時イツカ此夏アリシトキケリ綾小路俊宗卿

ツノ時ウタハレシカド秘説ニヤキコエサリシトゾ當時ハ

舞樂ノ氏詠アルモノヲウタフ氏モキコエスツノ所謂ヲ

シラス

蹴鞠ノトキ昔ハ僧クツヲハカサル、内外三時抄書云僧

ハ昔昔たぐ事なり尻切り紙をとりて給てき

始て着替るハ保元四年六月之日実尋自院賜替

鞆着之より今ハ替るなりトアリ

舞樂競馬ナトノ時ニ末額ト云モノハ今ノ鉢卷ナリソノ

引ヤウ古代ハ冠ノ下ニ引タリソノ圖卷末ニアリ

山城ノ賀茂下上ノ社ハ一宮ニテ地主ナレハ祭ニモ國祭

アリツノ故ニカ昔ハ宅カヘナトニモツ此社ニ申セシ

ニヤ梁塵秘抄口傳集第十二仁安四年二月七八日こム

おほ雪よりあかし日はかへひいは中に夜夜

へまよりきトアリ

内裏ノ六町町トテ當時モ掃除ノ役ヲ勤ムル町々アリ中山

親綱卿記文祿四年十月廿五日子晴就六町々新在家普

有定筆言

請之儀ニ付為一案佗言中々也就其民法一折紙也
くやトアリ

吸物ト云フ吉田社家鈴鹿家記應永六年六月十六日嘉定

中吸物ウツラ抽畧十六島トアリ 又中山親綱卿記文祿四年極月三日丑

晴早天醍醐令登山畧中其後理僧正上行向了從三門主二

献有之其後飯被出於理スイ物同一献其後飯有之

其後水本丘行着了門主理弟子来儀スイ物有之

飯相伴トアリ

産婦ノ産ニ臨メル氏腰抱ト云フ室町殿御産所日記永

享六年二月十三日取御腰懷ト云フアリ

産屋ニ借地ノ文ヲ押オス山槐記治承二年十二月一日辛

卯天晴中宮御産御祈中典藥頭和氣定成朝臣参

入押借地文於御産所母屋無其所仍北庇北上長押

押之件文先書年号大歳次書中宮職次書借地文

當月朔日押之也コノ氏ノ文ハ知ラ子丘借地文續添

鴻宝秘要鈔ニ出タリ

續添鴻宝秘要鈔卷之六

婦人門

産婦借地法

每卷卷尾

由兌

癸	未	丁	午	丙	巳
甲					
庚					
酉					
辛					
戌					
乾	亥	壬	子	癸	丑

北坎

坐月

體玄子借地法咒曰

東借拾步 西借拾步 南借拾步 北借拾步

上借拾步 下借拾步 壁方之中四十餘步 安產借

地忌有穢污或有東海神王或有西海神王或有南

海神王或有北海神王或有日遊將軍白虎夫人遠

去十丈軒轅招搖舉高十丈天符地軸入地十丈令

此地空閑產婦其產所該氏安產產所該無所妨礙

錄作碑無所畏忌諸神擁護百邪逐去急急如律

白令勅錄作碑右如此朱二二書于產ノ月二入ヨリ產所ノ北ノ口力八

ニオスベシ香ヲ焼テ三返コレヲ誦ス

白禿ノ藥鐵博士丹波康賴醫心方第四裏書云

白禿

大黃一坏 硫黃粟大 塩同 味噌同 麻油同 酒同 酢同

又方

猫頭灰无者鳥頭灰 竹虫屎以二味等分合テ男ニ六雌鷄女

ニ雄鷄ノ冠ノ血ヲ入テ攪合テ受テホロクトシテスリ

又ルヘシ但先髪ヲヌキステ後挑木ヲ煎テ瘡ノフタヲ

洗ステ、此藥ヲ又ルヘシ度スヘシ

諸神有位無位ノ差別ナリ正六位上ト云フ文德實録

仁壽元年正月甲戌朔庚子詔天下諸神不論有位

無位叙正六位上類聚三代格嘉祥四年正月廿七日大

政官符ニモアリ則仁壽元年ナリ

伊呂波字類抄ニ吉田社永延元年山陰中納言奉鎮之春日大原野奉崇之以榊為正体

トアリ今モ神ヲ祭ニ此定ニテ榊ヲ正体トシテ崇

奉ハ穂ナルベシ

至尊ノ有馬ノ湯召シ御湯治ノ下百練抄正元元年十

月五日乙亥自今日主上御湯治被召有馬温泉湯

トアリ

拾芥抄ニ淨衣色アリ青黄赤白黒ソノ修法ニヨレリ

山槐記治承二年十月廿九日取酉刻座主宮著黄洋衣

御袈參給トアリ

禁祕御抄ニ清凉殿ノ條弘廂板九枚トアルハ孫庇ノ

幅一丈ノトコロヲ兩方ノ長押ヲ五寸ツ、ニシテ一尺ノ

板九枚ニテ張シヲ云ナリ卷末ニ圖アリ

世俗ニ渡唐ノ天神ト云モノ卧雲日件録支安三年四

月十五日取翌日真智客來訪曰我多天神挿梅一

枝肘懸小袋トアリ

銀柳筥アリ權記長保二年十一月十六日己丑詣左府

奉檜扇世枚以銀楊筥

賀茂ノ姓ヲ慶滋トスルヲ權記長保六年九月廿五日取

改賀茂為慶滋トアリ

十三回忌ノ一東鑑寛喜元年十二月廿五日取故右大臣家

十三年御追善也行西奉行之正日雖為明年正月廿七

日有沙汰被引上之トアリ

山科言繼卿記天文十四年六月二日暮々衣紋予束帶藤

黄門エ罷向ウレ口直シ參内トアリ藤黄門ハ高倉殿

ナリコノ比ハ衣紋ヲ搔ニ兩家ノ差別ナカリシニヤ

河海抄ニ日本見在書目六藤原佐世撰トアリ書目ハ

世ニ全篇ノナカリシモノトオモヒシカ大和室生寺

ノ印アル古本粘葉一冊書肆カ買得セシヲミルニ五六
百年前ノ古本

日本國見在書目録

正五位下行陸奥守兼上野権介藤原佐世奉

勅撰

トアリテ部門ヲ立テ書目アリ佐世ハ藤氏儒士ニテ宇

多醍醐ノ朝ノ人ナリ希代ノ書ナリ得テミルベシ予寫

シオカサリシハ遺恨ナリ

太平記 劔卷 渡邊氏ノ家ハ破風ナレニ東屋ナリトアリ

四阿ハ破風ナレ兩下ハ破風ツクリナリ唐招提寺ノ金

堂四阿ツクリナリ卷末ニ圖アリ

河海抄 後の昌泰元年十月競持記 取要 典藥頭阿保朝

臣常世著故弊青白椽衣隨御藥辛櫃 云々 コノ辛櫃

イカナリシヤ可考

舟橋家天神七代神号 更ヲカケル書ニ云 奥書天文十年十

右判アリ

一天神七代神号事

吉田説ニハ天地自然ノ御名ニテ神号ノ義理ヲ不付之

更家ノ習也後成恩寺殿御説ニハ神号ノ義理ヲ付ラ

ル暫其義ヲシルニ進スルモノ也トアリ此吉田家ノ説ハ

實ニ古傳ナルヘシ又谷重遠甲乙録第七ニ有形神有
社無形神無社或有社後世所為也此經晃之說ナリト
アリ經晃ハ内宮中川荒木田經晃神主ナレハ此トモ神宮
ニ古傳アルナレベシ

當時ノ書家ニ御家様ト云フアリ蹇驢嘶餘云一世尊
寺清水谷ハ能書ノ家也是ヲ家様ト云也旧院様ヨリ
後圓融院家様ヲアソバシ改テ勅筆ガクヲイカニモ
風流ニアソバシ出シ諸家ニ學之トアリ勅筆ト云ハ
宸筆ト云フトニエタリ後世コレヲニヨリテ勅額ト宸
筆ノ額ト同クヤウニナリタレハ差別アルヘキト也

名物六帖通鑑周紀世宗勅天下寺院非勅額者悉
廢之註胡三省曰勅額者勅賜寺額如慈恩安國興
唐之類按勅許建寺則賜額謂之勅額非宸筆扁
額也トアリ分明ナリ

平家物依才大なるん清盛高擧へ乃なりたり大なるト
をかとおくれかんへあつきはるにいはくよりあるを
さく考僧のむくけりみかまのみハあををたをひひ
ひよ波をたみかせ杖のふとはなるにすかりて出來
りつちトアリ伴大納言画卷物ニ老人カセ杖ニスカリタ
ル圖卷尾ニアリ

服中トイヘ氏神号ヲ書テ宣胤卿記文龜二年二月十
 一日甲寅天晴侍從三位兼俱所望之三社託宣並天
 神名号中三社託宣服中不可苦之由兼俱卿演說任
 彼商量同月十七日三社託宣一幅兼永朝臣所望書之
 トアリ重遠甲乙録第八ニ垂加曰世所謂三社託宣非
 託宣也贊也天照大神嵯峨天皇宸作八幡弘法大師春日ト
 部兼延之作ト云リ是非ヲシラズ託宣ニハアルニシテ
 レ氏贊ナリト云モ甚シキナリ予世尊寺家ノ三社
 託宣ノ書法ヲミタリシカ天照大神宮八幡大菩薩春日
 大明神トナラベテ横物ノ表粧ニスルヤウニカケリ神号ヲ

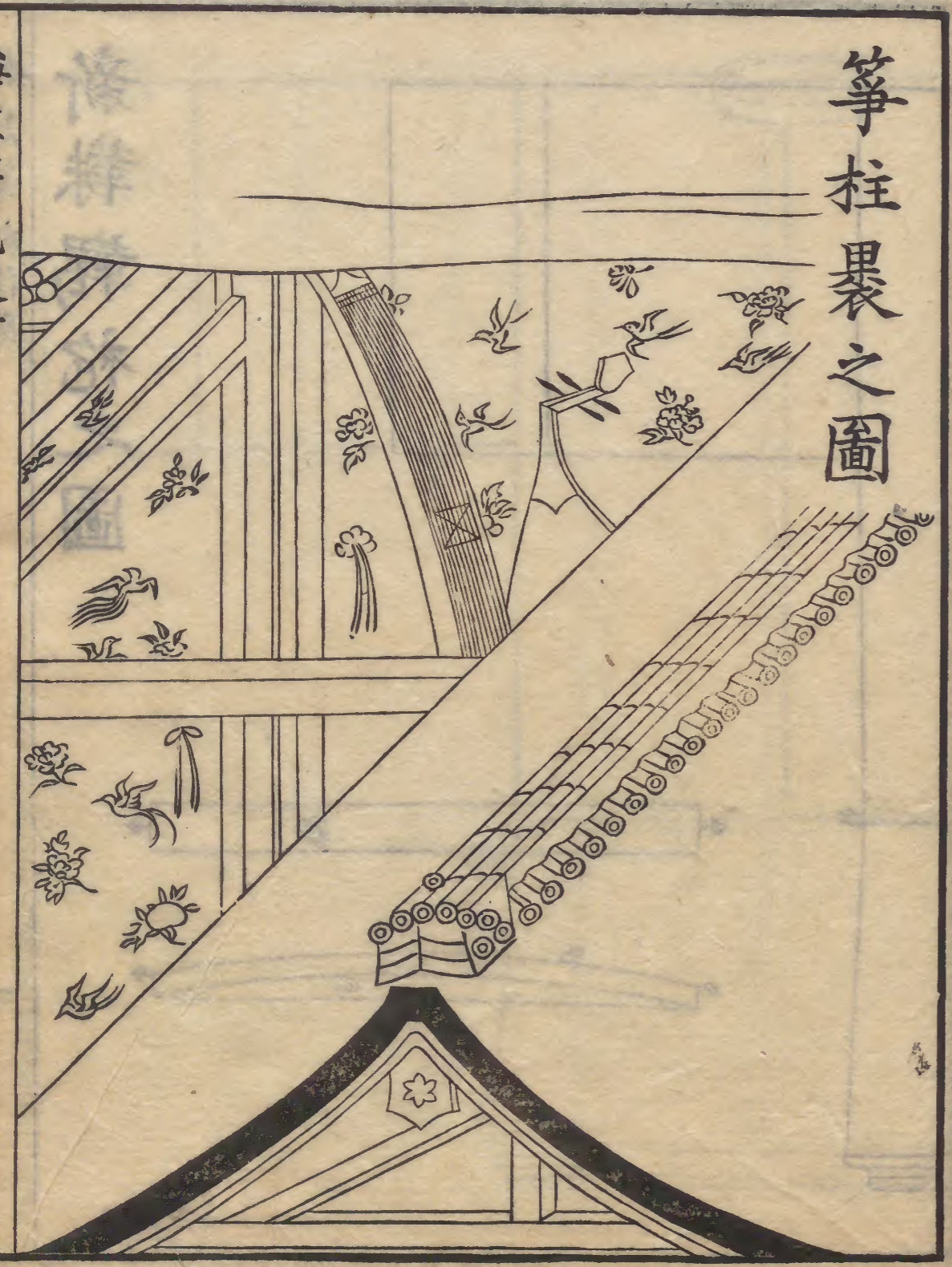
三神氏平頭ニシテ託宣ト云詞ヲ一字低書シテ二行ニ
 カケリ當時ノ持明院家入木ノ託宣書法ノ傳ハコレニ
 違ヘリ武家ノ具足櫃ニ入ル、モノナリト云リ
 色紙ニハ名ヲカ、ヌモノトミユ小右記長徳五年十月廿
 八日取要右大辨行成書屏風色紙形花山法皇主人
 相府右大將右衛門督宰相中將源宰相和歌書色紙形皆
 書名後代已失面目但法皇御製不知讀人左府歌
 書左大臣件事奇怪事也トアリ
 親長卿記文明十二年十月廿一日晴今日日本紀御談儀御
 讀書也此夏此間以民部卿被仰兼俱卿御侍讀可遣

勅裁之由被仰元長去十三日書遣之トアル民部卿ハ白
川忠富王ナレハ吉田家白川家此比ハ穂ナルトトニエタリ
又忠富王ハ雅兼王ノ次男ニテ若年ノ片後土御門院
ニ近習シ兼俱卿ヨリナハ神道ヲ傳受セラレレ云
リ元長ハ親長卿ノ子ナリ

當時ノ乱舞ノ謡曲ニ祝言ナトノ片ウタハガハ禁句或ハウ
夕ヒ替^{カフ}アリ古代モノノ類アリ中右記嘉美二年十
一月廿三日^要取神樂薦枕之中阿美於呂之ト云所ハ阿
美於所^{ミオツレ}之ト哥也於御前於呂之ト云詞可避之故也

三條五平殿...

箏柱裏之圖

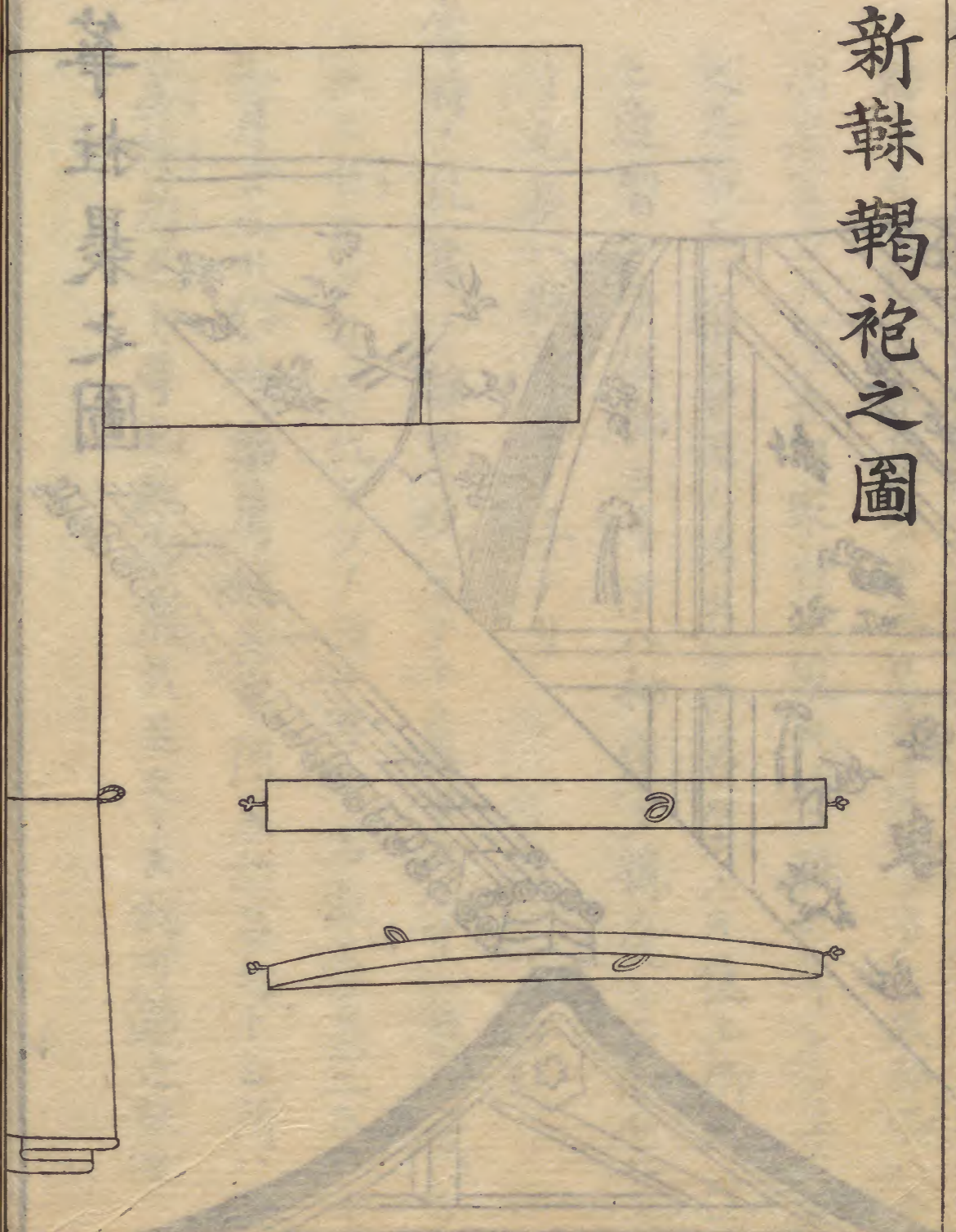


後緯

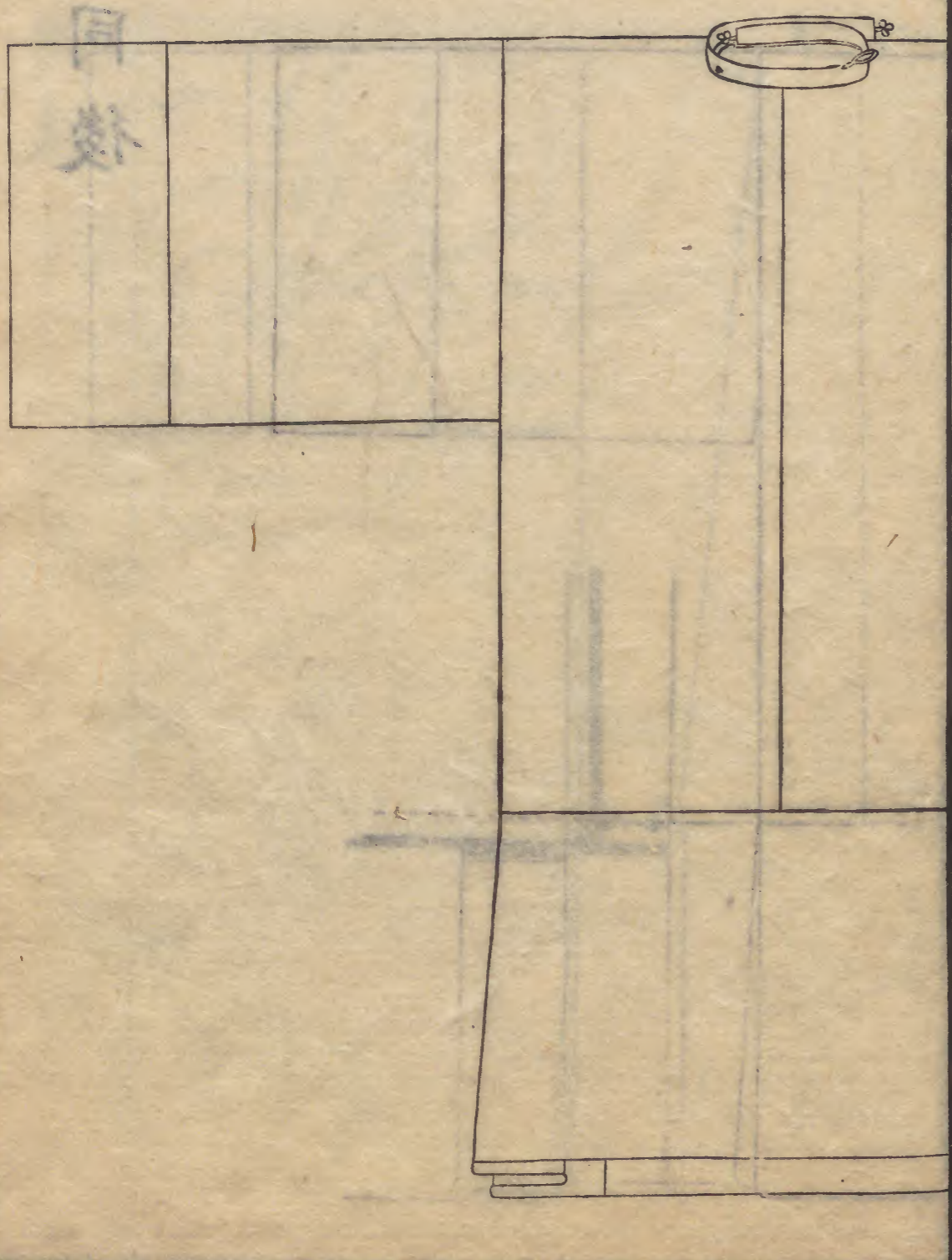
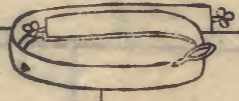
御前筆記

柏定筆記後陔

新靺鞨袍之圖



新靺鞨袍之圖



目録

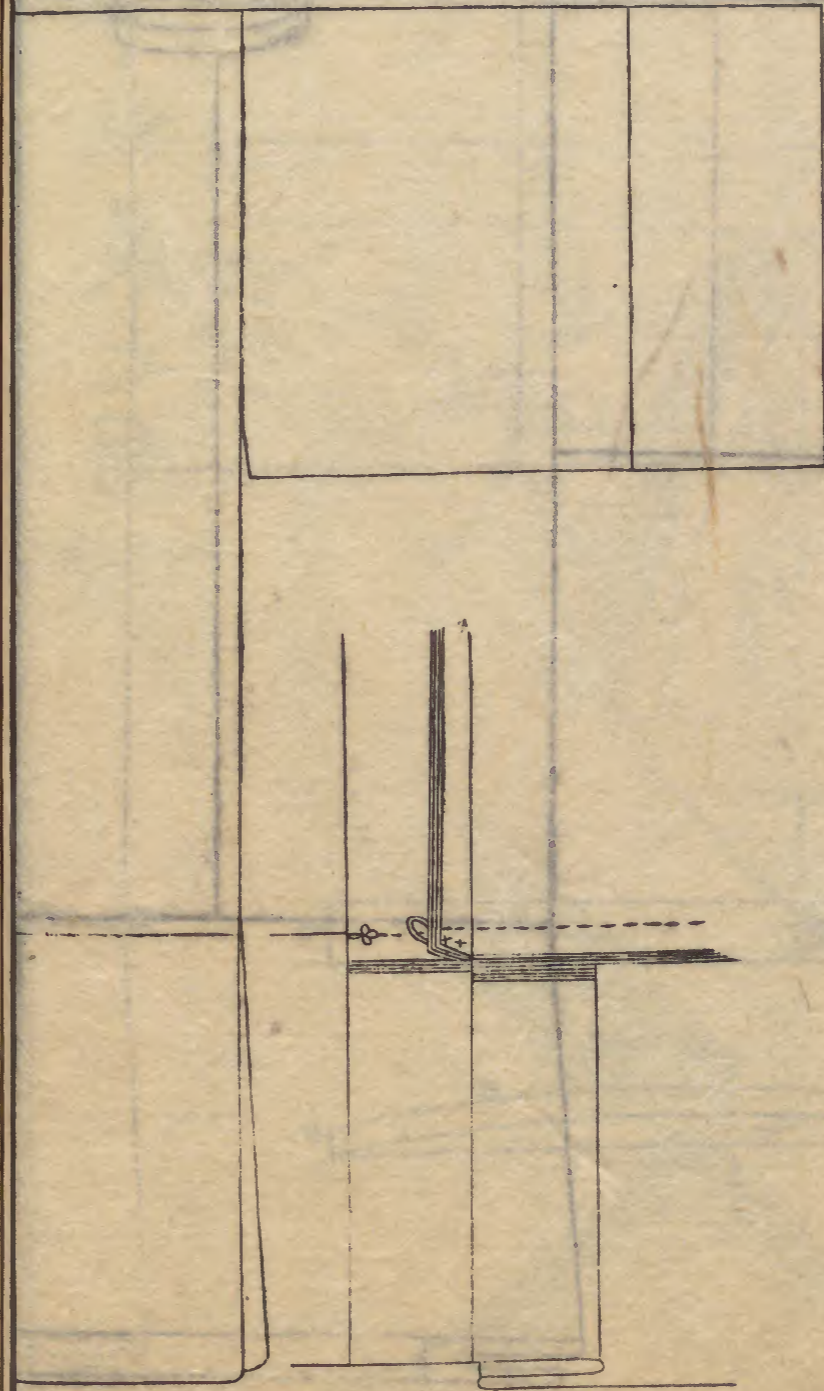
海防新編

卷

海防軍記後附

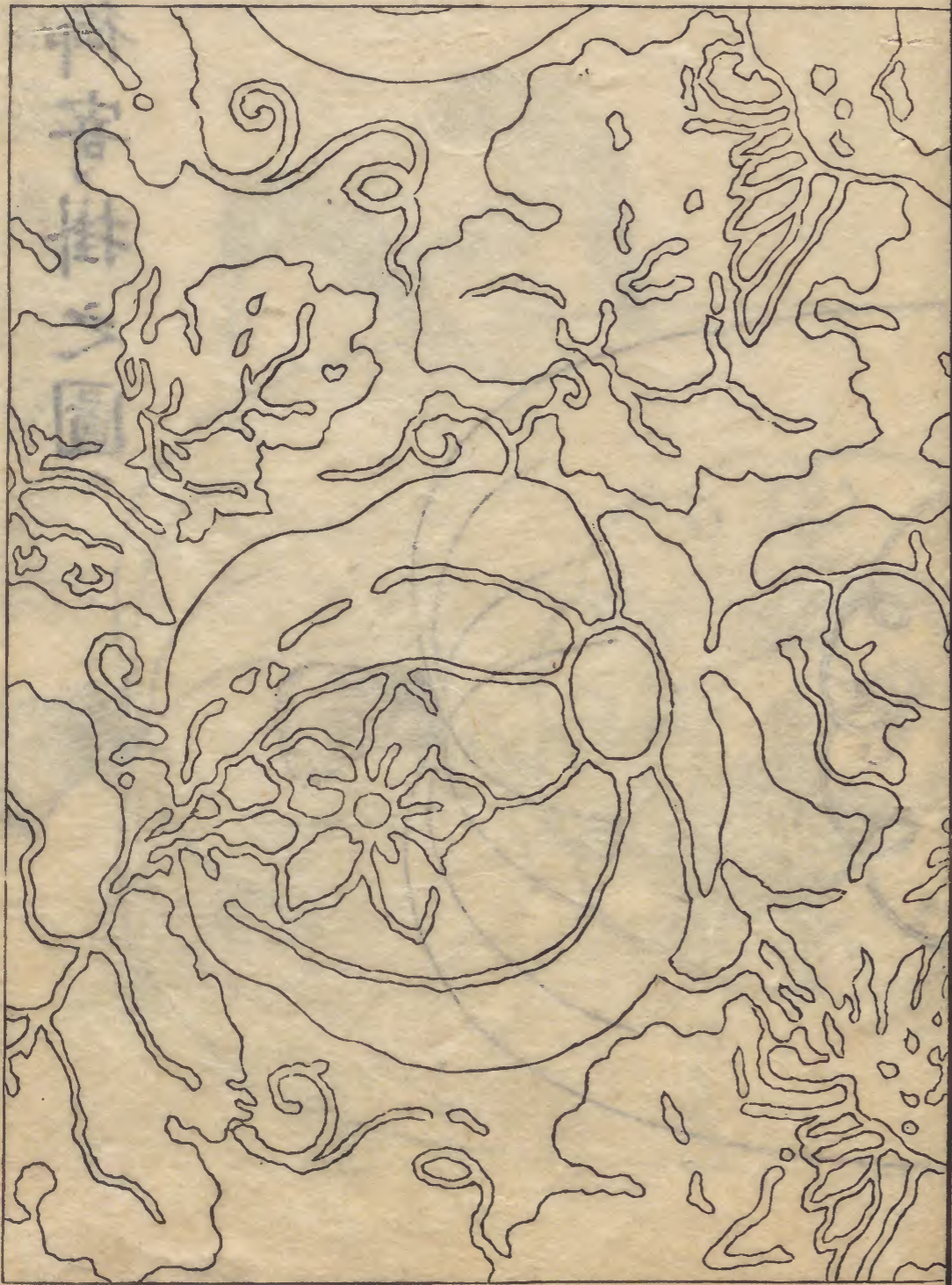
同後

轉化之圖



精宏筆言後附

同紋



海客筆言後附

御寄掛之圖



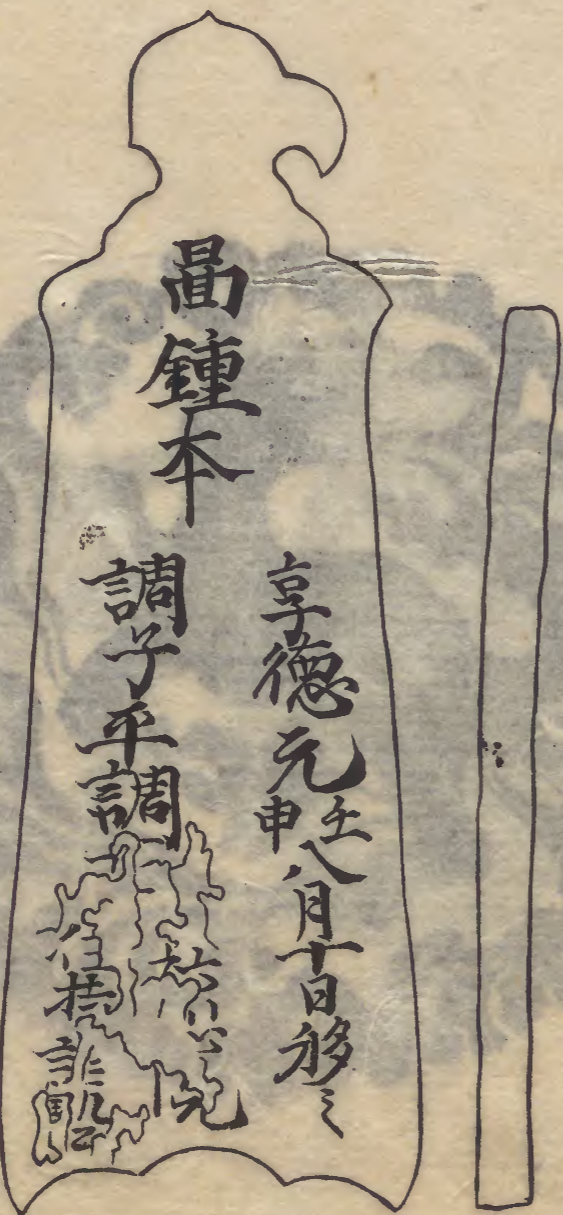
古画馬期帶八圖



古画馬腹帶之圖



平調板之圖



蘇不覺之圖

村宮筆記後附

褐衣蠻繪之圖



平陽本之圖

六

繡蠻繪之圖



村宮筆記後附

梅窓筆記後附

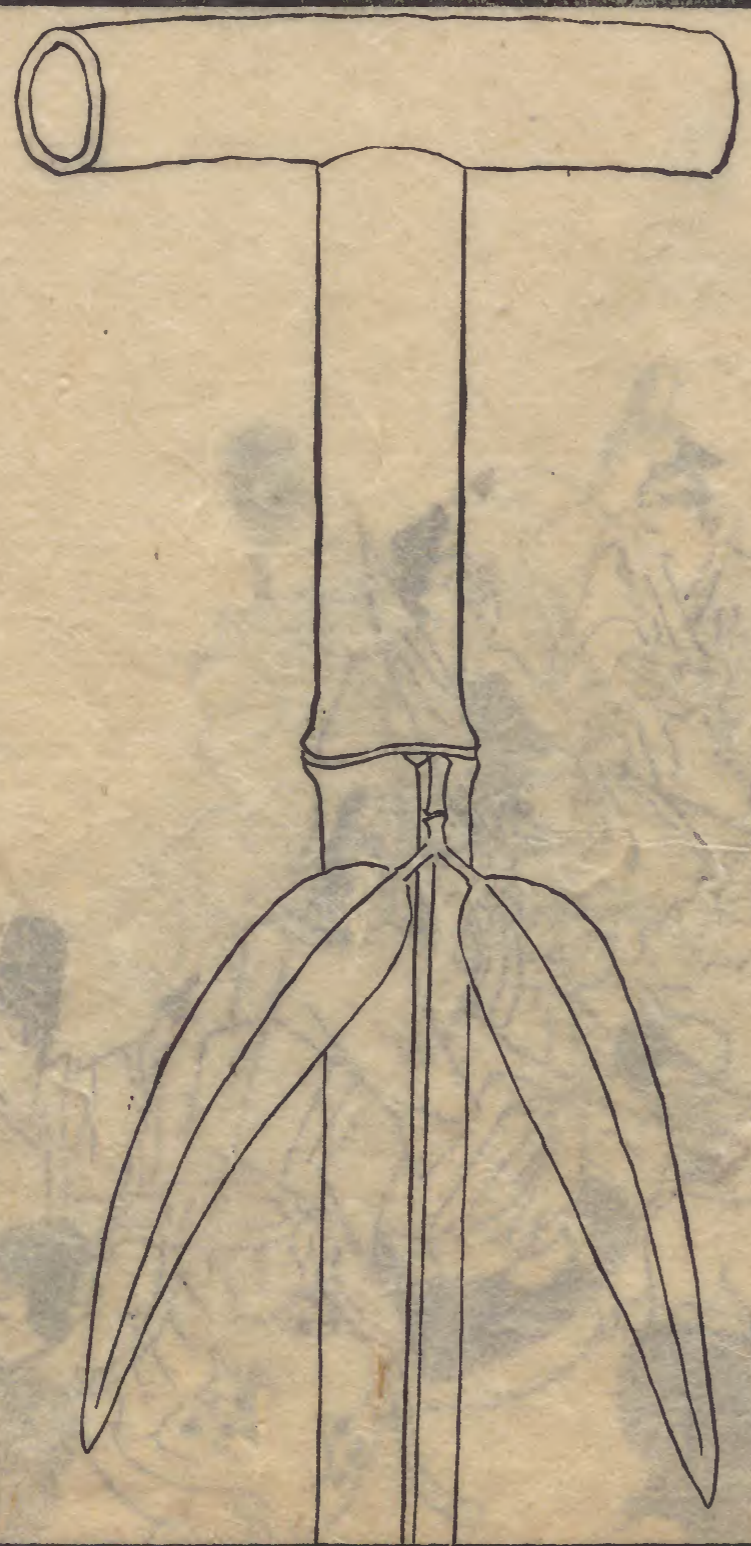
七

梅窓筆記後附

御賀杖之圖



御賀杖之圖



御賀杖之圖

梅窓筆記後附

相撲之圖



鎌倉大相撲



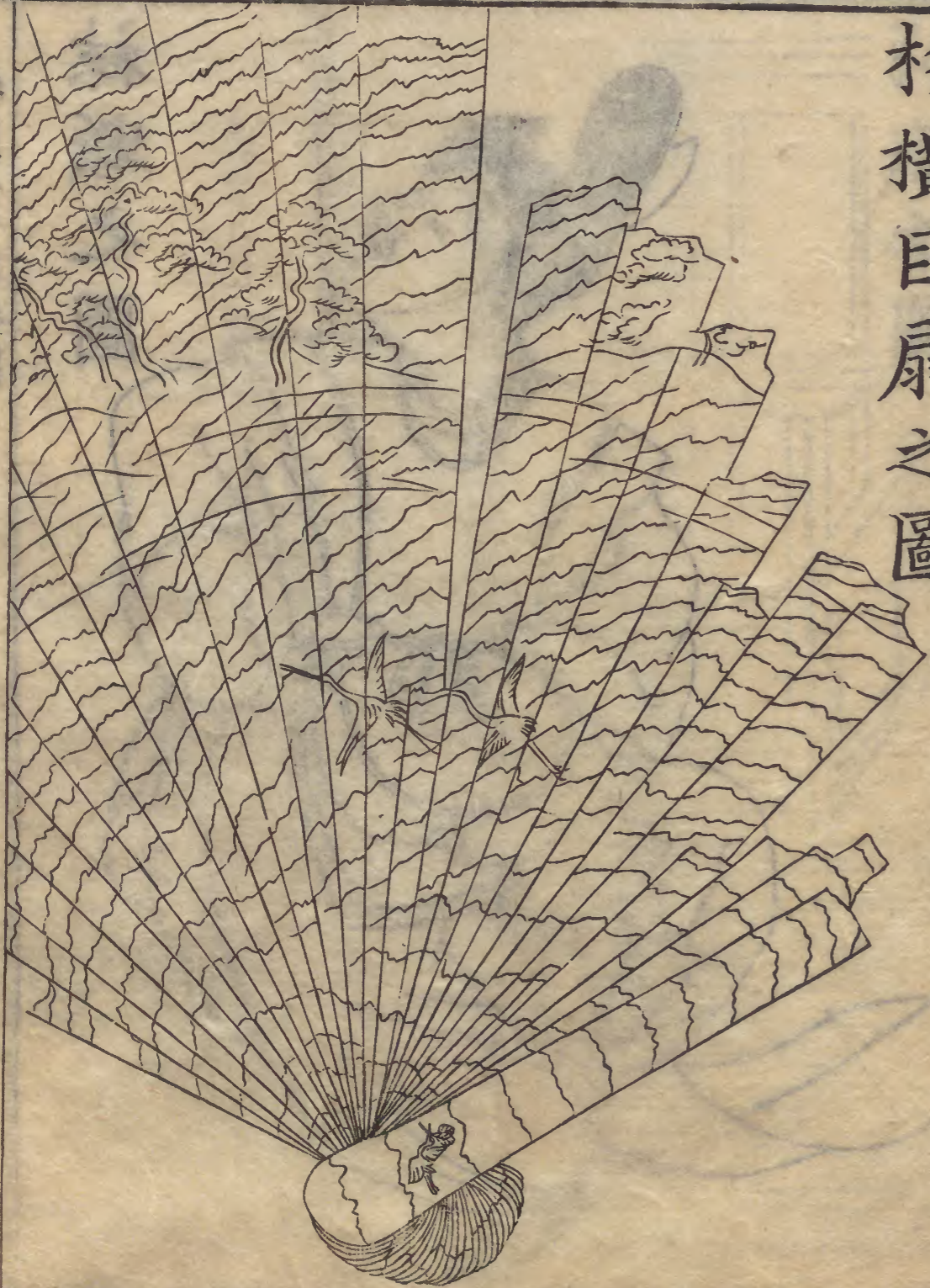
本宮書言作附

折敷作付高坏之圖



世

杉横目扇之圖



本宮書言作附

世

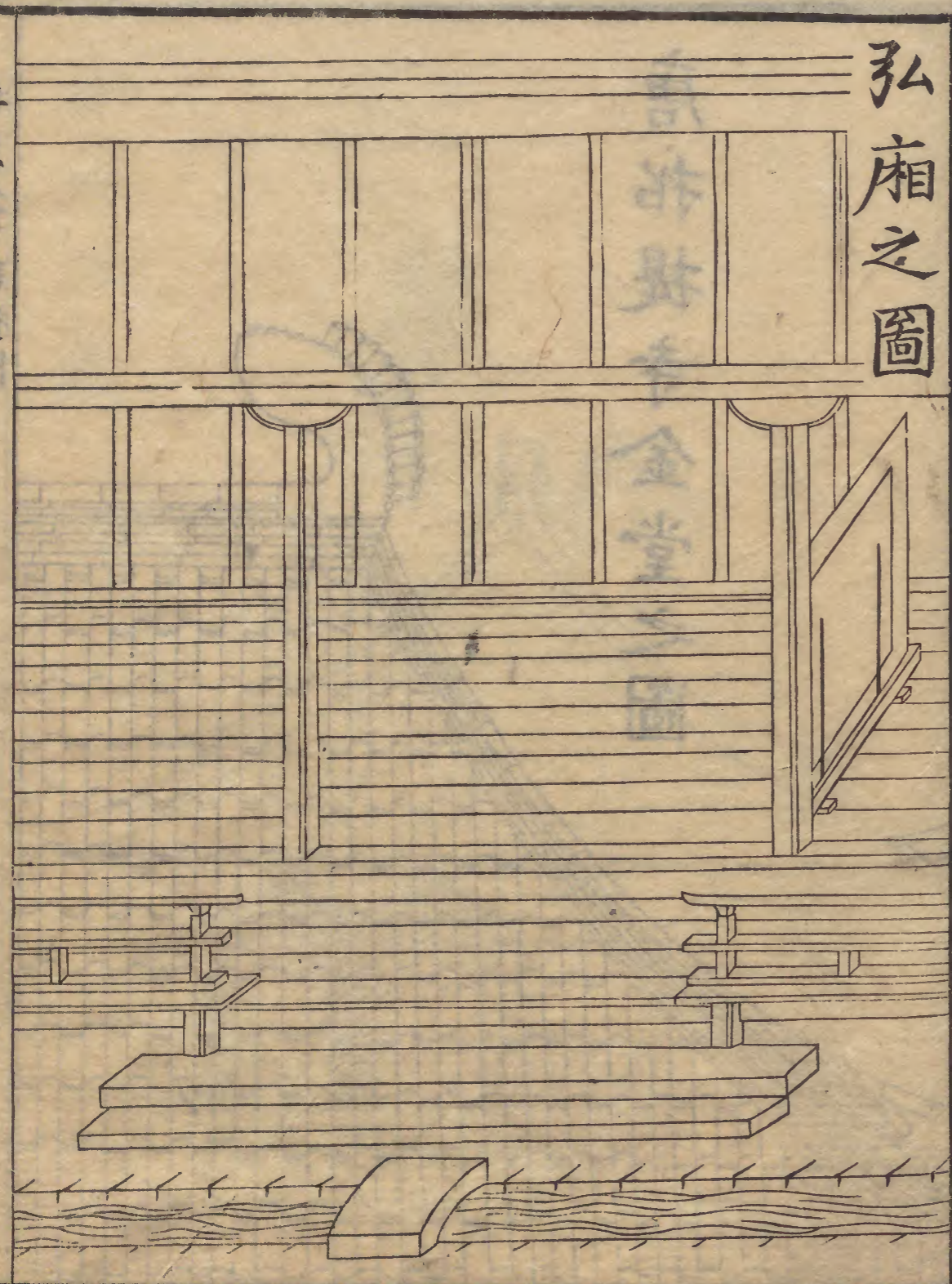
祿額之圖

本定筆言後附



沐魁目氣之圖

弘廂之圖

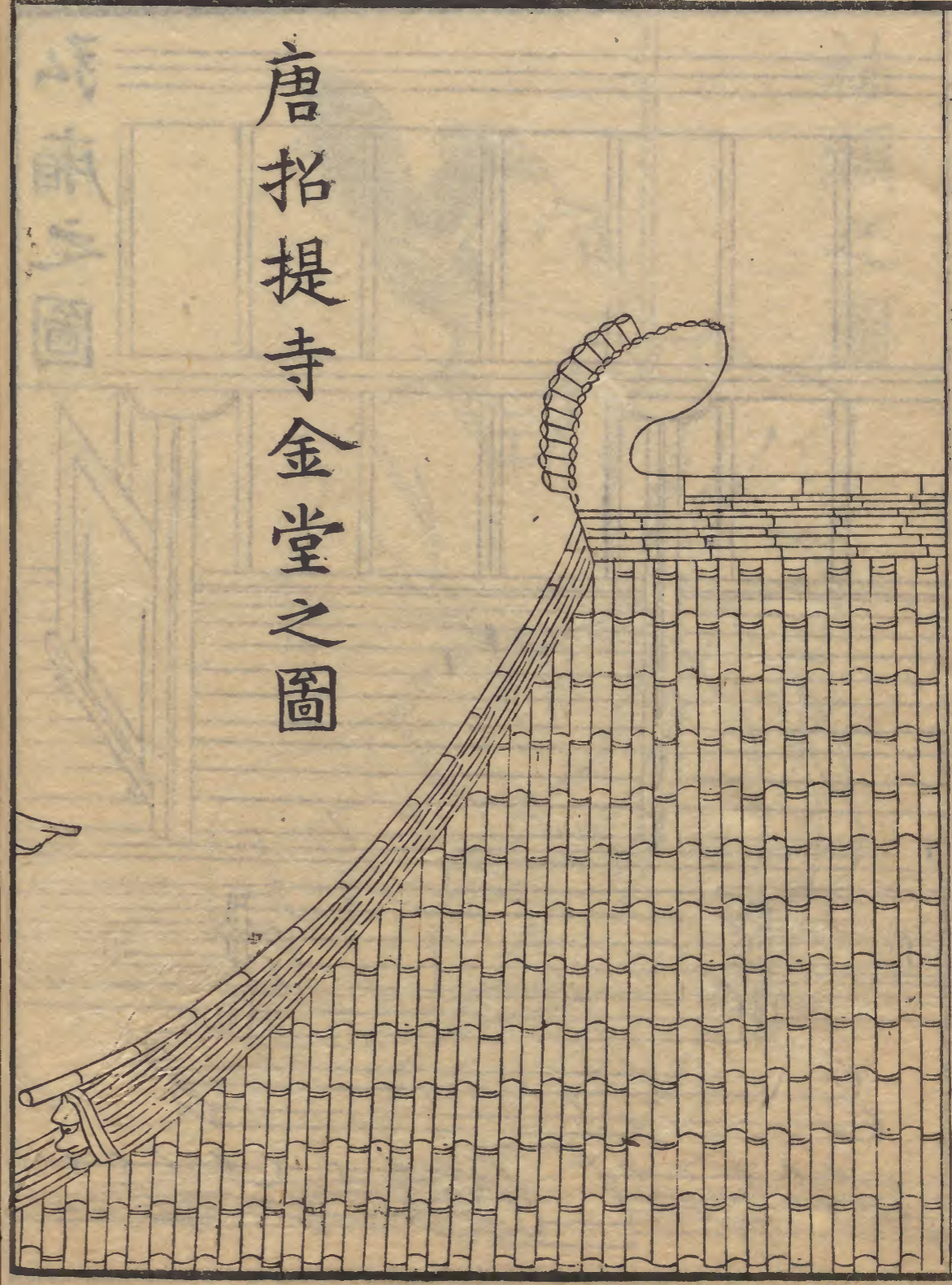


海峽筆言後附

十三

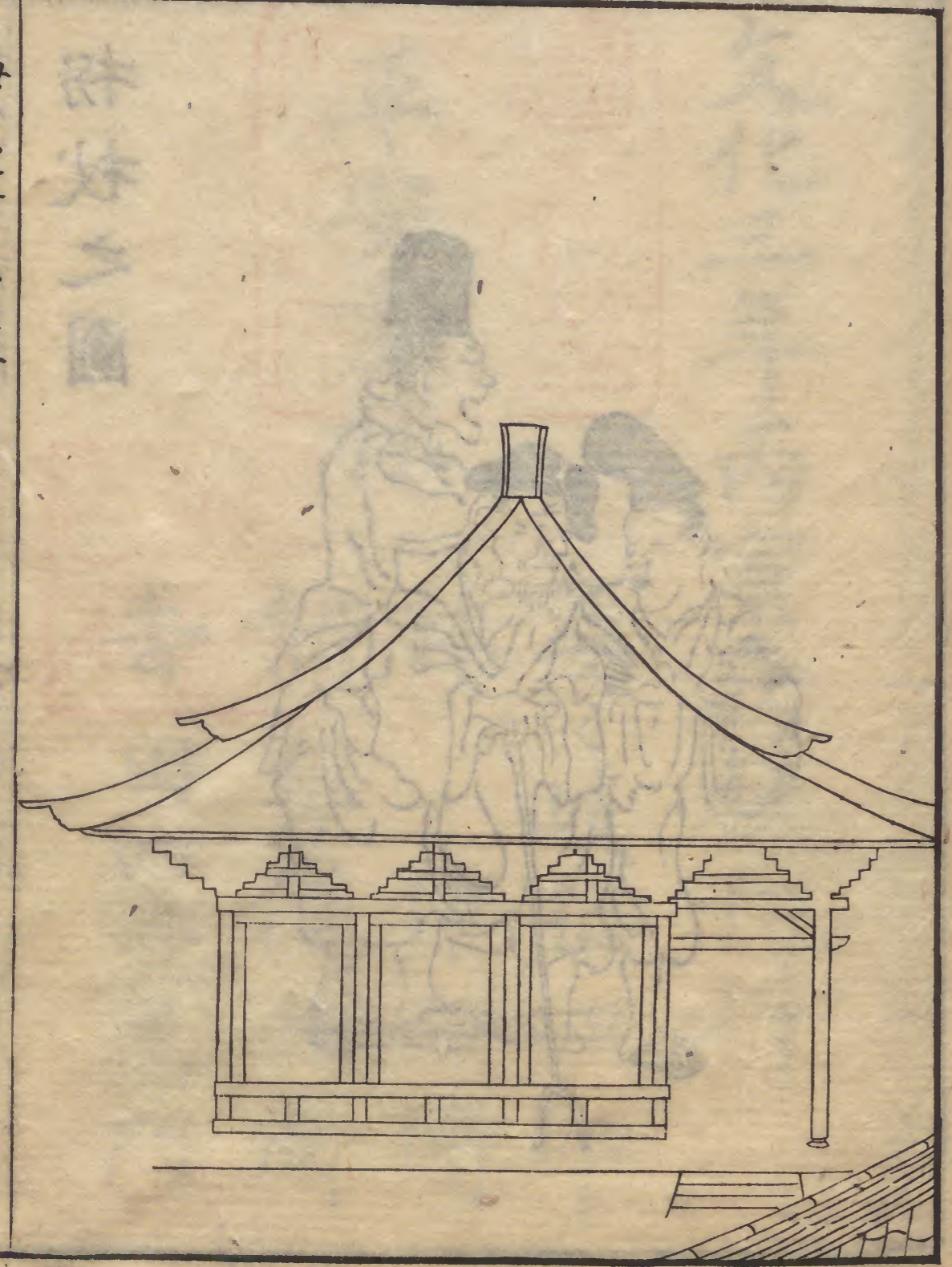
本定筆言後附

唐招提寺金堂之圖



唐招提寺

唐招提寺



唐招提寺

十三

杖之圖
言後所

拐杖之圖



文化三年丙寅初秋刊行

平安書林

婆々岐搥四郎

林伊兵衛

能勢儀兵衛

吉田四郎右衛門

